

中央区内景气动向调查

平成30年6月调查结果

平成30年7月26日

中央区

総 括

平成 30 年 6 月の動き

中央区内における 6 月の現状判断 D I は合計で 51.5 と、前回調査から 5.5 ポイント低下している。景気の先行き判断 D I は合計で 50.5 と前回調査から 3.5 ポイント低下している。

図表 景気の現状判断 D I、先行き判断 D I（合計）

(D I)	平成30年			前回調査 からの変化
	2月	4月	6月	
合計				
現状判断 D I	54.5	57.0	51.5	(-5.5)
先行き判断 D I	57.5	54.0	50.5	(-3.5)

目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

調査の概要

1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した50人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1)の理由
- (3) (2)の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4)の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4 調査月及び調査期間等

調査月は年6回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約1週間で、平成30年6月調査の調査票発送は6月7日（木）、回答期限は6月18日（月）である。

5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

6 有効回答率

調査客体50名に対し、有効回答客体は49名、有効回答率は98.0%であった。

7 DIの算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DIを算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気的水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表 3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

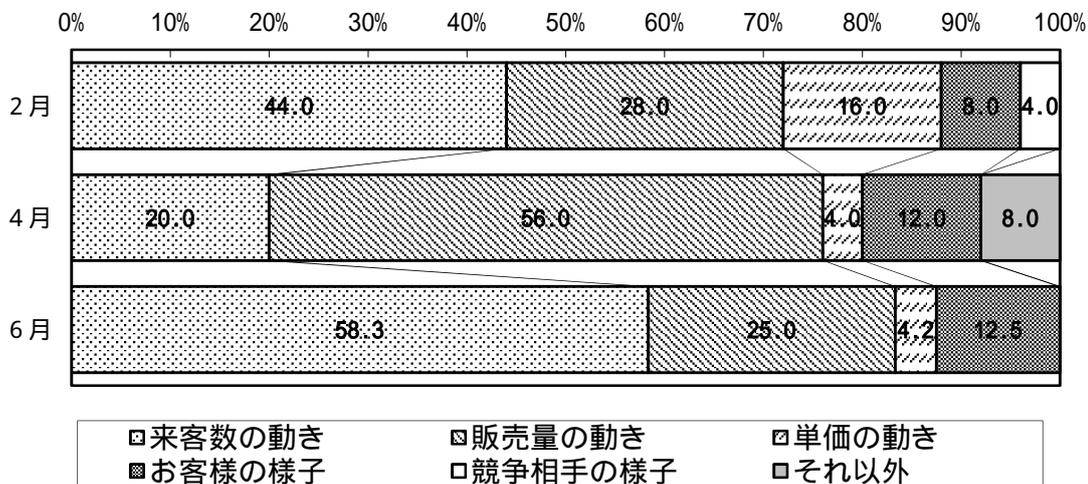
(D I)	平成30年		
	2月	4月	6月
合計	56.0	58.5	52.6
家計動向関連	54.0	62.0	56.3
小売関連	57.1	67.9	57.7
飲食関連	-	-	-
サービス関連	57.1	64.3	50.0
住宅関連	-	-	-
企業動向関連	58.0	55.0	49.0
製造業	55.0	55.0	45.0
非製造業	58.8	55.0	50.0

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

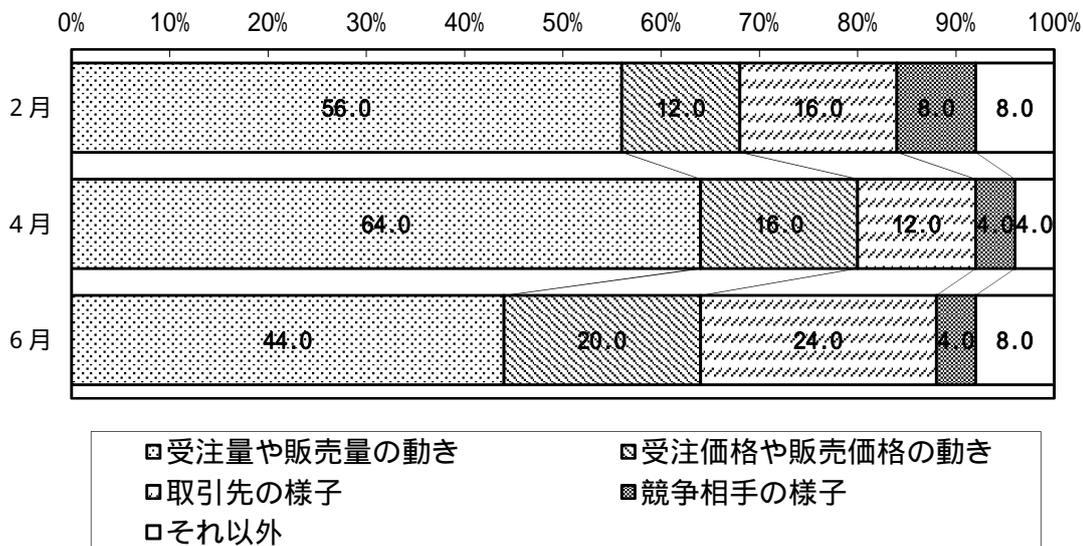
(注)景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気的水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

家計動向関連



企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。
割合が0%の場合、数値は表記していない。

4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良くなっている	-	-	-	
	やや良くなっている	一般小売店〔文具〕(販売担当)	来客数の動き	・インバウンド客が増加し、買上率も上昇している。	
		百貨店(総務担当)	販売量の動き	・高額品の特選衣料雑貨、宝飾品が、堅調な国内需要と好調な免税売上により、売上を大きく伸ばしている。	
		コンビニ(店長)	来客数の動き	・景気が上向いているという実感はないものの、数値としては来客数がやや伸びている。	
		高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・予約状況でその月の動向を判断している。過去の売上に対し、4～5月は予約受付の段階で低調だったが、6月はやや払拭されてきている。	
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・この時期は修学旅行、観光客で一番にぎわっている。	
	変わらない	一般小売店〔食品〕(店長)	来客数の動き	・予約注文などで売上はどうかに安定しているものの、通常の来客数は10%減少している。	
		百貨店(総務担当)	お客様の様子	・国内外の客の買上動向は、依然として堅調である。	
		百貨店(総務経理担当)	来客数の動き	・3月～5月の来客数はほぼ横ばいで推移している。	
		スーパー(店長)	来客数の動き	・来客数は前年をクリアしている。特に良くなっているわけではないが、緩やかに増えているか、横ばいである。	
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・場外市場においては、外国人観光客が増え、一般的にはにぎわいを感じることも多いが、実質的な売上にはつながっていない。	
		都市型ホテル(経営者)	来客数の動き	・季節的な要因及び同業者の乱立が原因ではないか。	
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・春先の移動時期が終わり、新規の申込みも顕著な動きはみられない。	
		その他レジャー施設(経営者)	来客数の動き	・今月は来客数が前年同期より約30%落ち込んでおり、3か月前と同様である。花見や連休でのお小遣い不足が今も続いている。	
	やや悪くなっている	一般小売店〔事務用品〕(営業担当)	来客数の動き	・天候の影響や時期的なものもあるが、客の動きが悪く、10%程度減少している。	
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・来客数は、前年同月比で4月が94%、5月は90%となっている。外国人客数は、前年同月比で4月が107%、5月は127%と伸びているが、日本人客が大幅に減っており、特にゴールデンウィーク後の減少が厳しかった。	
		衣料品専門店(店長)	単価の動き	・セール商品の動きが良い。セール中心の購入である。	
	悪くなっている	-	-	-	
	企業 動向 関連	良くなっている	輸送業(従業員)	受注量や販売量の動き	・前年同月と比べて受注量、売上共に増えている。
		やや良くなっている	不動産業(企画担当)	受注価格や販売価格の動き	・オフィスビルの賃料は引き続き上昇している。空室が出て、館内増床や外部からの引き合いで、テナントがすぐに決まっている。
卸売業〔機械器具〕(経営者)			受注量や販売量の動き	・わずかながら動きが出てきたようである。	
その他サービス業〔ビルメンテナンス〕(営業担当)			受注価格や販売価格の動き	・急ぎの案件等も増えてきている。金額よりも即時性が求められており、通常より価格が高くても発注を受けることが多々ある。	
変わらない		出版業(経営者)	それ以外	・2020年の東京オリンピック以降、景気は急降下するのではないかと。	
		出版業(営業担当)	それ以外	・ボーナス支給時期となったが、中小企業、特に紙媒体中心の業界は非常に厳しい状態が続いている。	
		建設業(営業担当)	競争相手の様子	・受注競争での価格差が出てきている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信業（営業担当） 経営コンサルタント	受注価格や販売価格の動き 取引先の様子	・この3か月、大きな変化は起きていない。 ・当地域には新しい商業施設が続々とオープンしているが、客の絶対数が増えているわけではないため、新しい施設だけがにぎわっている。
	やや悪くなっている	印刷業・製本業（営業担当） その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	取引先の様子 受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィーク後、全体的に動きが悪くなっている。なかには、受注数が半減した孫請け、ひ孫請け企業もあり、廃業すら考えているところもあると聞いている。 ・5月の繁忙期に比べて、注文数が減っている。
	悪くなっている	卸売業〔機械器具〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新年度になってから受注量が少ない。

4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる	-	-	
	やや良くなる	百貨店(総務担当)	・高額品、免税売上が引き続き伸長している。免税売上は前年と比べて2けた伸びている。	
		百貨店(広報担当)	・株価が上昇し、インバウンド消費も堅調な現状が崩れる要素は見当たらない。	
		コンビニ(店長)	・気温の急な上下動や天候変化に振り回されつつも、全般的にはヒト、モノの動きがやや活発化している。	
		高級レストラン(経営者)	・飲食業界は全体的に低調である。特に高コストの店は低調である。接待需要が減少している反面、個人消費は上向きに推移している。	
		高級レストラン(副店長)	・予約状況が前年に比べて良い。	
		一般レストラン(経営者)	・これから7~8月はイベント、キャンペーン催事などがあるので、集客に結び付く。	
	変わらない	一般小売店[靴](店長)	・個人消費は上向いていない。インバウンド効果で来客数は増加しているが、日本人客は増えておらず、単価も上がっていない。	
		一般小売店[文具](販売担当)	・昨今の流れから、今夏は外国人客の買上率も横ばいとみている。	
		一般小売店[食品](店長)	・近隣にスーパーができた時には、他方からも人が集まり、町全体に人の流れを感じたので、少しは上向くかと期待したが、大分落ち着いてきたようである。	
		百貨店(総務担当)	・夏休み等を利用した国内外からの来街者が増えており、この先2~3か月も引き続き堅調に推移するものとみている。	
		百貨店(総務経理担当)	・他店と差別化できなければ、現状維持が精一杯である。	
		スーパー(店長)	・現状から、2~3か月先も変わらない。	
		一般レストラン(経営者)	・市場の移転に伴いメディアの報道が増え、世間の関心が集まり、ますますにぎわうようになる。しかし、市場移転後の景気が不安である。	
		旅行代理店(店長)	・インターネットでの申込みの流れが一定程度考えられる。	
		通信会社(営業担当)	・今後の景気動向で気になるのが2020年の東京オリンピックだが、今のところ動きが少ない。	
		通信会社(営業担当)	・ユーザーからの問合せや申込みは減っていないが、増えてもいない。	
		競馬場(職員)	・今後2~3か月の購買動向は、特に大きな変化もなく推移していく。景気は現状維持が精一杯だと考えている。	
		その他レジャー施設(経営者)	・一度落ち込むと、立ち直るのは大変である。何か良いきっかけがあると良い。	
	やや悪くなる	一般小売店[和菓子](経営者)	・政治が不安定になっているなかで消費者がどのように動くか、大企業のボーナスが上がるなかで中小企業がどうなるか、分からない。	
		一般小売店[事務用品](営業担当)	・夏に向かって下降していく。また、案件もないため悪くなる。	
		衣料品専門店(店長)	・セール期、夏休みなどで支出を抑えたり、流れが変わるとみている。	
		都市型ホテル(経営者)	・世界経済の動きが不透明で、将来に対して楽観できない。	
	悪くなる	-	-	
	企業 動向 関連	良くなる	その他サービス業[ビルメンテナンス](営業担当)	・東京オリンピックイヤーに向けてのカウントダウンが始まっているので、比較的安定して上がっていく。
		やや良くなる	印刷業・製本業(営業担当)	・根拠はないが、前年実績から、今から夏にかけてが底だと推察する。秋の半期を迎え、緩やかに回復してほしいという希望的観測もある。
			不動産業(企画担当)	・既存のオフィスビルにおいては、2次空室狙いの問合せが多く、新築ビルでは1~2年先に竣工するビルでも、次々にテナントが決まっている。
		卸売業[機械器具](経営者)	・取引先各社からは、注文が少し増えてきているとの話が聞かれる。	
		卸売業[機械器具](営業担当)	・7~8月分の受注見込みはあるので、少しずつ良くなる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
	変わらない	出版業（営業担当）	・ここ数年、雑誌広告は単価、金額、本数共に変わらず減少が続いており、良くなる見込みがない。	
		建設業（営業担当）	・受注量がまだ伸びていない。	
		建設業（経営者）	・現状では変化する要素が見当たらない。	
		輸送業（従業員）	・動きに変動がない。	
		通信業（営業担当）	・国際情勢が、米国による中東の不安定化、貿易摩擦により不透明となっており、どちらに向かうか見えてこない。	
		金融業〔証券〕（営業担当）	・6月中は3月期決算会社の株主総会を控え、企業活動にも大きな動きはみられず、目先の米朝会談についても、見た目には成功のシナリオが織り込まれていることから、しばらくは現状維持ではないか。	
		卸売業〔飲食料品（鮮魚）〕（経営者）	・すでにいっぱいいっぱいである。	
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・動向が左右されるような状況、情報が無い。	
	やや悪くなる		その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	・この先2～3か月で大きな受注は見込めない。
			出版業（経営者）	・人手不足の深刻化が人件費の高騰を招き、利益率を圧迫する。
			建設業（営業担当）	・東京オリンピック関連の仕事が落ち着いてきている。今後の受注構想が厳しくなる。
			卸売業〔機械器具〕（従業員）	・受注環境の厳しさを感じる。価格を追い込んでの応札が増える見込みである。
	悪くなる		経営コンサルタント	・中古市場の拡大やレンタル、シェアリングなどが伸びているが、購買層が伸び悩んでいる。
卸売業〔繊維・衣服等〕（営業担当）			・全体としては悪くはないが、例年夏に向けて悪くなる。	

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)
合計		50
家計動向関連		25
	小売関連	14
	商店街・一般小売店	5
	商店街代表者	0
	一般小売店経営者・店員	5
	百貨店	4
	百貨店売場主任・担当者	4
	スーパー	2
	スーパー店長・店員	2
	コンビニエンスストア	1
	コンビニエリア担当・店長	1
	衣料品専門店	2
	衣料品専門店経営者・店員	2
	家電量販店	0
	家電量販店経営者・店員	0
	乗用車・自動車備品販売店	0
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	0
	その他小売店	0
	住関連専門店経営者・店員	0
	その他専門店経営者・店員	0
	その他小売の動向を把握できる者	0
	飲食関連	4
	高級レストラン経営者・スタッフ	2
	一般レストラン経営者・スタッフ	2
	スナック経営者	0
	その他飲食の動向を把握できる者	0
	サービス関連	7
	旅行・交通関連	3
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2
	旅行代理店経営者・従業員	1
	タクシー運転手	0
	通信会社	2
	通信会社社員	2
	レジャー施設関連	2
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0
	ゴルフ場経営者・従業員	0
	パチンコ店経営者・従業員	0
	競輪・競馬・競艇場職員	1
	その他レジャー施設職員	1
	その他サービス	0
	美容室経営者・従業員	0
	その他サービスの動向を把握できる者	0
	住宅関連	0
	設計事務所所長・職員	0
	住宅販売会社経営者・従業員	0
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0
	その他家計の動向を把握できる者	0
企業動向関連		25
	農林水産業従業者	0
	鉱業経営者・従業員	0
	製造業経営者・従業員	5
	食品製造業	0
	繊維工業	0
	家具及び木材木製品製造業	0
	パルプ・紙・紙加工品製造業	0
	出版・印刷・同関連産業	5
	新聞業	1
	出版業	2
	印刷業・製本業	2
	その他出版・印刷・同関連産業	0
	化学工業	0
	石油製品・石炭製品製造業	0
	プラスチック製品製造業	0
	窯業・土石製品製造業	0
	鉄鋼業	0
	非鉄金属製造業	0
	金属製品製造業	0
	一般機械器具製造業	0
	電気機械器具製造業(精密機械を含む)	0
	輸送用機械器具製造業	0
	その他製造業	0
	非製造業経営者・従業員	20
	建設業	4
	輸送業	1
	通信業	2
	金融業	2
	不動産業	1
	卸売業	6
	繊維・衣服等	2
	飲食品	1
	建築材料・鉱物・金属材料等	0
	機械器具	3
	その他卸売業	0
	サービス業	4
	広告代理店・新聞販売店[広告]	0
	司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1
	コピーサービス業	0
	その他サービス業	3
	その他非製造業	0
	その他企業の動向を把握できる者	0